

ヨーロッパスタイルを守る側に立つ

欧州車のスタイルアップは、欧州ブランドは暗黙のルールであり、そこから大きく外れるなど誰も考えていなかった時代。大阪の真面目なエンジニアに誕生したフェイムは、タブー視されていた旧座ブランドも積極的に投入し、なにより現在のスタンスに通じる極低車高を支持。その振り切ったスタイルは、熱狂的なファンを生み、ある面ではヨーロッパスタイルの楽しみ方も根柢から変えようとする破壊者であった。

そんなフェイムの現在を眺めると、随分と異なる立ち位置にいるのが分かる。ブランドの産地にこだわらない柔軟な姿勢は同じだが、オリジナルブランド「ワグナイハイム」を立ち上げ、マフラーや鍛造ホイールを展開するメーカーの側面も持つようになった。加えて、代名詞ともいえる「低さの探求」は、随分と抑えられ、たとえはこのクルマがクローヘからは、かつて立ち向かったヨーロッパスタイルの伝統を守る側への転身すら感じさせられる。

さうするに「プロショップ」としての歴史とは、作り手だけでなくユーザーも一筋に手駒を動かしていることだ。当時は過激なスタイルリングを求めたユーザーも、年齢とともに「コンバクトカーからセダン」や「ラグジュアリーなクーペ」へと乗り換え、インジカもオトナな方向へ改竄されていく。同時にプロショップ側もノウハウや様々な経験が積み、結果としてかつてのような過激なスタイルリングからは距離を置くようになってきたとい

う。また、本作のテーマは「伝統の通り、オトナのクーペスタイル」を意味しているから、あらゆる「ニューエーション」や「アパレル」などの新しい感性を併せ持つ。そのうえでさりげないハイエンド志向は、重厚さを併えたスポーツスタイルを構築した。エアロ、ホイール、高調は欧州ブランドで固めつつ、マフラーやブレーキには国産を配置するあたりには、ヨーロッパスタイルを守る側にいまやフェイムらしさが現れている。

プロショップの
凄腕
PROFESSIONAL WORLD

Fame!

BMW640i GRAN COUPE

新しいヨーロッパスタイルを模索し続ける
伝統を打ち破る側から
いまや護る立場へ

ルールに縛られない自由な発想を持ち込み
ヨーロッパスタイルに変革をもたらしたフェイム。
キャリアを積んだ老舗プロショップとなったいま目指すのは、
伝統に根づいた新しいカタチのヨーロッパスタイルだ。

TEL 072-730-0888 www.fame-web.com
〒565-0822 大阪府吹田市 伊藤吉行 文芸通野池之

SPEC BMW640i クランクーペ
エクステリア
ハイマン
フロントバンパーボイラー
サイドスカート
リアバンパーボイラー
リアスポイラー
M用純正キチノーフリル
ホイール
ハイマン エアロパーツ EVD F: 3x21 R: 11x21
コンチネンタル コンチネンチスポートコンタクト
F: 255/30 R: 255/25
サスペンション
KW車高調整 DDC ECU
フライハイ仕立製マフラー
ブレンボ 3ポット キャリパー+RDC400mmコーター
RDCにロックローターキット+380mmローター
インテリジェント
ペダルセット



↑ルーフのみパール入りのブラックでペイントした。パールが剥がれるのは小さな差だが、高級車である6グランクーペには上質感を出すアレンジの積み重ねが必要!



↑ビフォーアフターはベージュのアルカンターラで張り替えた。シートを含めたインテリアのトーンを統一することでオトナ感が大幅にアップする。



↑手軽に内装のスタイルアップを楽しむならオリジナルのフロアマットもオススメ。足取りからはじめるので新車でも対応可能だ。



↑これまで存在しなかったBMW用ターボタイプを開発。レスポンスアップが期待でき、すでに6グランクーペやM4用をラインナップする。



↑とくに新車などブレーキシステムの設定がない場合は、細かくワンオフ対応できるRDDのローターを活用するケースが増えています。

↑新車の場合にはメーカーを指してデータ取りからはじめることも多い。なかでもサイズに自由度のあるハイパーフォーシドも特に信頼する。



↑フライトライトでは競合ホイールを2モデル展開している。村田代表が毎年求めている「ずっと付き合える」がコンセプトだ。



↑デビュー間もない新車車にはワンオフマフラーを製作することも多い。人気車種になりそうな場合は、ワンオフモデルをベースに美観マフラーを開発することもある。



↑ホイールはオーナーの希望によりアニバーサリーEVOの計1インチを装着。正副りはKW車検調DOG ECUを装着し、シチュエーションを揃えないギリギリの転車高を狙う。



プロショップの
凄腕
PROFESSIONAL WORKS
Fame!
BMW640i GRAN COUPE

オトナのクーペスタイルを日差しで“色く、石かのあるスタイル”がテーマ。マフラーサウンドも合わせて調整された。おまかせの仕上げがされる。



↑エアロはすべてハーマンで統一。バンパー開口部やウイング内面をブラックアウトすることで、迫力のあるデザインを際立たせた。こういったアレンジこそ長いキャリアの成せる技だ。

次々と登場するニューモデルに 対応できるノウハウこそが最大の強み

時代を超えてフェイムが支持され続けるワケとは?

経験豊富な和代表のアドバイスを求め、いまもフェイムを訪れるユーザーは多い。ただ以前と変わったのは、ユーザーもショップと一緒に年齢を重ねたということ。それはスタイルアップの方向性が変化するだけでなく、入庫する車種にも強く影響している。以前であればゴルフなどのコンパクト系が多かったが、徐々にBMWやメルセデス、さらにはスポーツカーやハイクラス寄りに移行しており、なかでも発売間もない新車種の入庫が増えているのは特徴的な傾向だ。

「とりあえず新車に乗り換えたから」と持ち込まれることが増えましたが、そうなる前にパーツも揃っていないし、なによりホイールひとつとってもメーカーを揃えてサイズを一緒に考えたり、マフラーもワンオフしたりと手が掛かる。このグランクーペはオーナーがハーマンでいくつて言うの



フェイム代表 **和田吉弘** さん

↑フェイムを選定する理由でオリジナルブランド「フレイム」も展開する様々からのクルマ好き。最近ではフェイムのイメージにはまったく関係ないジャンルにも興味を持ちます。

で、デモカーみたいなにならないようエアロの輪郭が浮かび上がる塗り分けとか、インテリアの張り替えで存在感を出さないかと考えました。車高も昔ならもっと下げたと思うけど、自分と同年代のオーナーが乗ることを想定した低車高というか、ちょうどいいスタイリングを自指してセッティングしています」と和田代表。

カスタマイズに対してナーバスになる最新モデルが多いのは、プロショップとしての信頼があつてこそ。当然、提供できるパーツやアレンジに限りはあるが、キャリアを通じて育んできたノウハウとメーカーとのパイプを活かし、そんな苦勞を感じさせないスタイリングに仕立てる力こそ、時代を超えてフェイムが支持され続ける理由なのだと感じた。



フェイム
①大阪府箕面市東生外野1-21-10
☎072-730-0988
www.feme-web.com
②10:30~20:00 日祝10:30~19:00
③水曜 第3火曜

↑ヨーロッパに最新スタイルを提案してきたフェイム。「全開で臨めること」がテーマのスタイルアップに注力している。